

考える！動く！つながる！ 生徒発の防災活動 ～生徒が企画する1日防災学校～

北海道静内高等学校 学級数 13 (校長 酒井 徹雄)

□ 実践の概要

地球温暖化や気候変動により、台風や洪水、地震などの自然災害は年々激しさを増している。海岸から約 1 km、海拔 5.5m に位置する本校は、津波や河川氾濫の脅威と隣り合わせであることから、生徒は「自分たちの手で地域の防災に貢献したい」と考え、「静高防災チーム」を結成し、防災活動の企画・実践を行っている。

1 実践の目的

本実践の目的は、全校生徒の災害に対する防災意識及び危機意識を高めることである。

令和 6 年度、「Do 防災アクション」に参加した生徒が、他校の生徒から防災の取組を行っている事例を学んだ後、校内で実施したアンケートから、「本校生徒の防災意識の低さ」や、「避難訓練や1日防災学校等の取組の形骸化」を課題と捉え、生徒自身が主体となり「静高防災チーム」を結成し、生徒自ら「考え」、「動き」、地域と「つながる」1日防災学校を企画・実施した。

2 実践内容

(1) 実施計画

「石川県立能登高等学校」、「平取高等学校」、「平取養護学校静内ペテカリの園分校」、「日高振興局」、「新ひだか町」、「日高中部消防組合消防本部」及び「自衛隊」と連携し、「1日防災学校」を計画した。

(2) 取組の具体

	1 年次	2 年次	3 年次
1 校時	【講話】(テーマ)「自助・共助と高校生」石川県立能登高校の生徒による能登半島沖地震時の体験談講話(オンラインでの実施) 平取高等学校生徒もオンラインにより参加		
2 校時	【避難訓練】シェイクアウト 大津波警報発令後 4 階へ垂直避難 養護学校生徒受入訓練		
3 校時	【実習】救急救命講習 災害時に身に付ける知識・ 技術(指導:自衛隊)	【実習】煙部屋体験 (指導:消防)	【体験】高台避難(水平)経 路体験 【実習】Do はぐ (指導:日高振興局)
4 校時		消火・発火の仕組み(理科)	
5 校時	【座学】体験学習の振り返り	【思考】非常食を使ったメニ ュー考案	
6 校時	【製作】外国人向けポスター 制作	【体験】避難所体験 段ボー ルベッド製作・スリッパ製作 (指導:新ひだか町役場)	

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

成果は、本校生徒が能登高校の生徒から地震発生時の恐怖や混乱の中で行動した体験を直接聴くことにより、防災の重要性を実感することができたことである。また、避難所で能登高校の生徒が自ら判断し、地域のために活動した話を聴き、生徒が自助・共助の精神を自分事として捉えるきっかけとなったことである。

課題は、1日防災学校のプログラムの内容が膨大であったために、学びを振り返る時間を十分に取れなかったことである。



【非常食メニュー考案の様子】

(4) 改善に向けた取組

令和 7 年 7 月 30 日、カムチャツカ半島付近を震源とする地震が発生し、町に「津波警報」が発令され、町民が本校へ避難する状況となったが、本校生徒及び教職員は、本実践で学んだ知識や災害時の心がけを生かし行動することができた。しかし、津波避難訓練では想定していない状況があったことから、静高防災チームが中心となり災害時の様々な場面を想定した訓練内容の充実・見直しを図る必要がある。

3 実践のポイント

- ・生徒が主体的に本実践を行うことで、防災に対しての主体的な態度を身に付けることができた。
- ・本実践が今後も継続的な取組となるよう、成果と課題を整理し、次の代に引き継ぐ必要がある。